日本学術会議
東日本大震災に係る学術調査検討委員会（第 22 期・第 4 回）
議事要旨

日　　時：平成 24 年 9 月 26 日（水）　14：00～17：00

場　　所：日本学術会議 5 階　5-C(1)会議室

出 席 者：岩澤康裕委員長、山下俊一副委員長、武市正人委員、
友枝敏雄委員、福田裕穂委員、渡部終五委員、濱田政則委員
大場利康国会図書館電子情報部課長（オブザーバー）

配布資料：
資料１　前回議事要旨（案）
資料２　調査検討委員会の具体的方針と進め方について
資料３　日本学術会議協力学術研究団体の活動に関するアンケート結果
参考１　委員名簿

議　　事：
１　前回議事要旨（案）の確認
２　調査検討委員会の具体的方針と進め方について
３　学術調査の現状について
４　委員の役割分担について
５　その他

**１）前回議事要旨（案）について**

○前回議事要旨（案）について訂正等があれば、適宜、事務局あてご連絡をいただくこととされた。

**２）調査検討委員会の具体的方針と進め方について**

○事務局からの資料２と３についての説明の後、以下の議論が行われた。

・この委員会は学術調査自体をするための委員会ではないし、調査内容の評価をするための委員会でもない。学術調査の現状を網羅的に調べ整理し、そこからわかること、学術界としての課題を明確にしてゆくことが求められている委員会である。
・アーカイブについては国会図書館から協力が得られる。現時点での一番の問題点は、前回のアンケート調査の回答が少ないこと。そして回答の中身が不十分なこと。前回のアンケートでは「学術調査」に該当する事例が少なかった。本来必要な情報が十分に得られなかった点を

次回のアンケートで如何に改善するか。
・全体として何が起こっているかをどこも把握していない（復興庁も）。学術界の活動の全体把握はこの委員会が行ってゆきたい。
・濱田委員より和田幹事との事前打合わせについて報告があった：
　→表層的学術情報のみ学術会議、それ以外は国会図書館でアーカイブ化すると言っても、言うは易く現実は難しい。学術会議としても応援したい。学協会連絡会のアーカイブのためのワーキンググループでも支援をしてゆきたい。学協会連絡会は資金面や存続期限について見えない部分があるが。
・出版物以外のデータをどうアーカイブ化するかという点は、国会図書館としても課題である。学協会との連携については、物理学会が放射線計測記録のアーカイブのためのワーキンググループを立ち上げたそうで、物理学会との相談は始めたところ。学協会との本格的な連携はこれからで、国会図書館としてはこの委員会との連携に重点を置いて進めてゆきたい。
・学協会によって学術調査の進行段階は異なる。この委員会では、学術調査や提言・報告書（完了しているものに限らず、現在進行中や今後行う計画のあるものも含む）、その他の活動を調べ、必要な部分を国会図書館で使ってもらう。
・学協会として行っている学術調査と個人で進めている学術調査とがある。後者の方が多いであろうし、学協会で全てを把握していない可能性もある。個人の学術調査をどのように吸い上げるか。被災地域での調査や支援活動についても同様。
　→学協会だけでなく、大学、独法、研究所の学術調査についても、この委員会で調べる。時期はできるだけ近づけたいが、アンケート設計の過程で決める。
・資料２の項目１から項目２への移行には工夫が必要。つまり、個々の具体的活動（項目１）の集合から、学術会議としての報告や提言（項目２）にどうもってゆくのか。アンケートの設計が非常に重要になってくる。学術調査の復旧・復興への影響、貢献について考察できるようなアンケートにしたい。
・被災地のどのエリアを調査したのか。それも調査項目に入れる。
・進行中の活動やその深層に関しては、ヒアリングをしないとなかなか出てこないので、今後事務局でヒアリングを行う。40 カ所程度を想定している。
・回答率を上げるために、前回の調査と同様に、会員と連携会員に直接協力を依頼するのも効果的である。新しい分科会の設置の際、委員を公募したら多くの反応があった。
・アンケートへの協力依頼書には、回答側のメリットと思われる事項を記載すること。国会図書館のアーカイブに掲載されることがメリットの一つ。
アンケートの趣旨（学術会議として横断的な立場から解析する旨）を

明記することも重要。アンケートに回答する側も労力を割くことになるので、回答が学術の発展や施策に役立つであろうことを伝えるのが回答するモチベーションに繋がる。

・また、報告書の末尾に、学協会の活動の概要が見えるようにすると、回答の有無や活動状態の比較になるので、回答を促すかもしれない。学協会側には、活動を発信する場の一つとして、本委員会からの報告書（の末尾）を使ってもらえるとよい。

３）委員の役割分担について

・委員の役割分担を明確にする。重要なのに抜けている分野があれば、各部の部長宛に、分野別委員会から適任者を推薦していただくようお願いする。

・委員にはアンケートやヒアリングの回答を読んでいただくことになる。網羅的に対応できるよう委員を増やす。分野としては下記、計３名にお願いしたい。

① 哲学→島薗進先生

② 社会心理学→ 一部部長の佐藤先生にお伺いする。

③ 環境学→安成哲三先生

・未回答者への再打診の際、本調査においてどの学協会が重要であるかの判断が、事務局としてはつきにくい。そういう時に「この学会からは必ず回答を得た方がよい」といったご意見を頂きたい。場合によっては、再打診の折に委員の先生方のお力をお借りしたい。

４）その他

・アンケート項目案については国会図書館とも相談しながら事務局にて整理し、翌週中に委員の先生方にお送りする予定。

・今後、委員会は二か月に一回のペースで開催する。

・年度内に提言または報告として公表する。

以上